



⑫尿検査

1. 排尿障害を呈した患者に対する一般的な検査

a. 検査所見

i. 臨床検査技師による情報収集(電子カルテ)

- ①尿沈渣:白血球(男性1~2個以下/10HPF、女性は1~2個以下/HPF)、細菌(+、-)
- ②免疫:CRP(C反応性タンパク)0.3mg/dl
- ③血液:WBC(白血球)/ μ l:4000~9000個/mm
- ④生化学:BUN(尿素窒素)8~20mg/dl
- ⑤CRE(クレアチニン)男性0.65~1.09mg/dl、女性0.46~0.82mg/dl
- ⑥血糖(GLU)70~110mg/dl

※1: 尿路感染症を呈した患者の尿中には細菌や真菌(カビ)が存在し、白血球やCRPの値が高く、確認と経過が必要。

※2: BUN(尿素窒素)やCRE(クレアチニン)は腎機能の状態を図る参考値となる。脱水時にも異常値を示すが、万が一、反射性膀胱などにより膀胱内が高圧状態にあると尿が尿管を逆流し、腎機能に影響を及ぼす可能性もあるため確認と経過が必要。

また糖尿病を合併した患者では血糖コントロールが不十分で、体内の浸透圧が上昇すると、尿生成が促進され、頻尿になる可能性があるため、血糖(GLU)の値も確認と経過が必要。

b. 検査所見(参考例)

<p>【尿検査】 pH: 4.5~7.5 尿蛋白: -~+ 尿糖: -~+ ケトン体: -~+ 尿潜血: -~+ 白血球: -~+</p>	<p>【尿沈渣】 白血球: 1個未満~100個以上/HPF 細菌: -~3+ 真菌: -~3+</p> <p>【血液検査】 CRP (C反応性蛋白): 0.6以下 (mg/dl) 白血球: 4000~9000 (個/μl) CRE (クレアチニン): 男性0.5~1.0 女性0.4~0.8 (mg/dl)</p>
↓	↓
<p>感染・炎症の有無 血糖コントロールの状態</p>	<p>感染・膿尿の有無 腎機能障害の有無</p>

c. 尿の色

- i. 正常: 淡黄色、混濁なし
- ii. 異常: 黄褐色⇒濃縮尿、ビリルビン尿
 赤色・赤褐色⇒血尿、ヘモグロビン尿
 混濁有り⇒膿尿(尿沈渣で白血球が5個/HPF以上認める)
 尿路感染症・尿細管間質性腎炎など